

6. 研修

1. 研究主題

自ら学び、豊かに語り合える子の育成

2. 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

21世紀は、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になってくる。

学習指導要領では、得た知識や技能を活用して、自ら課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等を育成していくことが大切になっている。そのためには、学習意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を養っていくことは欠かせない。国語科は、各教科における学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成を担っている。言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを重視していかなければならない。

これからの未来を生き抜くためには、自ら主体的に課題を設定し、他者とコミュニケーションを交わして知恵を出し合い、最後まで粘り強く取り組んでいくことが大切になってくるであろう。

そこで、本校では、「自ら学び、豊かに語り合える子の育成」を目指していくこととする。

(2) 学校教育目標から

学校教育目標

未来をたくましく生きぬく子

夢・チャレンジ・天神山っ子

〈めざす児童像〉

・学び合う子 ・支え合う子 ・鍛え合う子

教育目標を受けた目指す児童像『学び合う子』について、具体的に①自ら学び考える児童 ②豊かに表現できる児童 ③確かな学力をもった児童をあげている。自ら学ぶ意欲をもち、学習習慣を身につけ、基礎的知識・技能の定着とともに、思考力・判断力・表現力

・活用力のある子を目指すものである。

指導の重点としても、課題研究に直結する『自ら学び、思考し、表現する力を育む言語活動の充実』が示されている。

そこで、学習者を主体とし、相手意識、目的意識を持った言語活動を工夫することが、自ら学び、自分の思いを豊かに表現し、語り合える児童の育成につながると考える。

(3) 児童の実態から

本校は、豊かな自然に恵まれた、のどかな田園地帯にあり、全校児童45名の小規模校である。地域の人々は、学校教育に対して大変協力的である。このような地域に育った子ども達は、素直で従順、約束を守り決められた学習や活動をきちんと行うことができる。反面、主体性に乏しいところがある。仲間が少ないため、お互いの言いたいことがわかり、筋道立てて話さなくても思いが伝わってしまったり、磨きあったりすることができないでいる。学力調査においては、漢字などの基礎的な学習事項の習得はできているが、読む力は劣り活用することは弱いという結果がでていた。

そこで、国語科を中心に音声言語や文字言語を使い、相手意識を持って自分の思いを相手に伝えることのできる児童を育成することに3年間取り組んできた。また、表現力向上のために、自分の選んだ詩を保護者や全児童の前で音読するやまびこ集会も設定してきた。国語での言語活動の工夫や国語以外の教科で言語活動を意識した取り組みなどにより「自分の思いを伝える」という豊かな表現力が育ちつつある。

ひと区切りの3年を終えたが、伝えるだけでなく、自ら課題を見つけ、生き生きと豊かに語り合える児童の育成に向け、取り組んでいく。

3. 目指す児童像

『自ら学び、豊かに語り合える子の育成』とは

- 単元の見通しを持ち、自ら課題を見つけて解決していくことができる。
- 単元のねらいに沿って、自分の思いや考えを持つことができる。
- 自分たちで進んで話し合おうとする。
- 相手の考えも受け入れながら、自分の考えも伝えることができる。
- 伝えるための表現活動（書く・話す）をしようとする。
- 文章中から根拠となることを見つけ、相手に伝えることができる。
- 自分の考えと比べながら友だちの考えを聞くことができる。
- 友達の発表に対して、同意や付け足し、反対意見などを伝えることができる。
- 相手を意識して読み取ったことを効果的に表現することができる。

4. 研究の目標

自ら学び、他者と協力してその学びを表現できる児童を育成するにはどうしたらよいか、授業や日常実践を通して明らかにする。

5. 研究の方法

(1) 日常の授業実践の充実

国語科における教師の授業力と児童の学習力の向上を図るために、日常的授業実践を行い、その成果と課題を明らかにする。

(2) 語り合う力の向上の手立て

①児童一人ひとりの学習の成立のために学習に対する基本的学習習慣の確立を図るように取り組み、その成果と課題を明らかにする。

②教育活動全般において、授業を支えるための活動を大事にし、成果と課題を明らかにする。

(3) 実態把握

学力・学習状況調査や県標準学力テストを指標に、実態を分析する。

6. 研究・実践内容

(1) 国語科

①授業実践

○主題に沿った授業は、様々な単元において年間を通して実践していくのであるが、特に一人1回の研究授業を行うことにより、手立てが有効であったか検証する。講師（千葉大学寺井教授）の指導をうける。

②『やまびこ集会』

○重点目標である表現力を培うために、年2回実施する。

○1回目（2学期）保護者参観日に自分の選んだ詩を音読する。

2回目（3学期）全校群読や自作の詩や短歌・俳句などを発表し交流し合う。

(2) 国語以外の授業での取り組み

①学力向上に向けた取り組み

・漢字・計算道場・都道府県道場による基礎学力向上

・視写（速く書き取る）

・授業のまとめ（わかったことやわからなかったこと）を、自分の言葉で書く

(3) 授業以外の取り組み

◎児童が大勢の前でも堂々と自分の言葉で話す機会を持たせる。

①朝や帰りの会

〈例〉 ・1分間スピーチ・今日のニュース

・今日一日のできごと発表 など

②行事

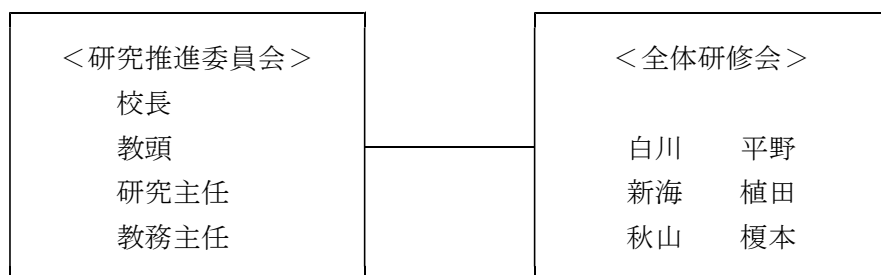
〈例〉 ・始業式や終業式での発表

・行事での感想発表

(4) 実態把握

・学力・学習調査や県標準学力テスト結果分析

7. 研究組織



8. 研究の進め方

(1) 研修日の運営

- ・毎週月曜日を研修日とする。
- ・研修は、研究推進委員会・全体研修会とし、国語科の研修計画・教具・資料作り・授業実践・考察・反省を行う。

(2) 授業研究

- ・研究授業は、1回以上行う。
- ・指導案検討 1回（必要があれば2回）

◎研究仮説は設けない。授業者が学級の実態に合わせた目指す児童像をもとに、主題に迫るための手立てを設定し指導案に明記する。

年間を通して主題に迫るので、授業研以外でも手立てを意識して指導に臨む。

(3) 講師

- ・講師を招き、理論研修や国語科の授業実践をし、全体で検討と考察をする。
- ・夏休みに個別に講師から指導をあおぐ。

(4) 先進校の視察

- ・一人一回程度、外部への視察等の機会を得る。
- ・先進校で学んだことを情報交換する機会を作る。

※主題が異なるので、参考にすべき点を見極め生かせることは生かす。

[第2部 修養（教職研修）]

9. 修養

○実技研修：講師の児童への指導を見学し、指導法を学ぶ。

- ・陸上運動・合唱・水泳・体操・書き初めなど。
- ・教育課程の中で行うので、研修日（月曜）とは限らない。

○地域素材の開発：地域巡検

- ・授業に生かせる天神山の自然/産業・歴史について、資料や文献・見学を通して教材研究する。
- ・地域の人や講師の話を聞く。

10. 研修年間計画

月日	課題研究	修養（教職研修）
4 14 木	○研究推進委員会 ○今年度の方針	
5 2 月	○28年度研究計画概略提案	・5月初旬 陸上指導
5 16 月	○目指す児童像についての話し合い ○授業者の決定	
6 6 月	○28年度 研究全体計画提案	・学力学習状況調査分析
14 火		・特別支援研修 (石井先生)
20 月	○個人研修	
7 7 木		・道徳研修（三浦先生）
11 月		・1学期 学級の学習状況報告
夏季休業中 研修日 2回 ①8/19（金）計画訪問指導案検討 PM ②8/26（金）国語授業構想 個別対応（千葉大 寺井教授）1日		
9 5 月		・夏季休業中の研修報告
12 月	○個人研修（計画訪問に向けて）	・9月 合唱指導法研修
29 木	○計画訪問	
10 3 月	○やまびこ集会について	・10月中旬 体操指導法 研修
17 月	○指導案検討（第1回 11/5）	
29 土	○授業参観（やまびこ集会）	

1 1	7 月	○指導案検討（第2回 12／6）	
	1 4 月	○個人研修（授業研準備）	
	1 5 火	○第1回校内授業研（寺井先生） （1年 白川先生）（5年 植田先生）	
	2 1 月	○個人研修（指導案作成・検討）	・11月中 特別支援授業研（榎本）
1 2	6 火	○第2回校内授業研（寺井先生） （2年 平野先生）（3年 新海先生） （6年 秋山先生）	
	1 2 月	○個人研修（授業研のまとめ）	
	1 9 月	○28年度紀要作成について提案	・2学期の学習状況報告
1	1 6 月	○個人研修（紀要原稿作成）	
2	6 月	○全体の成果と課題 話し合い ○来年度に向けて	・3学期の学習状況報告
	8 火	○課題研究まとめ（寺井教授）	
	1 3 月	○個人研修	
	2 0 月	○個人研修	
	2 7 月	○紀要綴じ込み	
3	6 月		・学力検査結果と分析